



中央展示「渦(うず)」

銀行跡の空間を活かし、「ありのままにしていること」をモチーフとした展示。鑑賞者は移動することで、視界がダイナミックに変化する様子を体験します。長い歴史を通じて、福岡、天神という場所に止むことなくエネルギーを与えてきた「海」の波を意識し、寛大さや安心感を演出します。

展示「マグミー」

銀行に設置されていた鉄格子の特性を利用した作品。鉄格子の中心に配置された方位磁針は、モーターによって制御されており、さまざまな方位を指し続けます。モニターには、鉄格子内をリアルタイムで撮影した映像が映し出されています。影の様な物の蠢き(うごめき)が確認でき、絶えず空間に“存在”を表現します。



展示「天神サロン」

九大博物館から借用した什器を設置し、昭和通りが見える大きな窓を前に、誰もが一息つける場づくりを行います。さらに参加者同士の交流、会話を喚起するためのコンテンツを展示します。



天神アートプロジェクト

天神アートプロジェクトロゴマークについて

2020年に閉館した天神コアのロゴ(デザイン:福田繁雄氏)を彷彿とさせる「天」の文字から、Artの「A」が浮かびあがります。それは未来への道筋を示すパースペクティブ(遠近法・眺望)であり、神社の鳥居のようにも見えます。

(c) Toshifumi Saito Laboratory, Kyushu University Faculty of Design

■齋藤俊文研究室(九州大学大学院芸術工学研究院 人間生活デザイン部門)

場に応じた豊かなコミュニケーションの醸成を目的として、多様な専門分野、得意分野を持つ学生たちが集まりアートコレクティブを結成。企画・デザインから制作・社会実装までを行っています。オーディエンスの“気づき”を誘う新しいコミュニケーション表現、ユニークなメディアデザインをつねに求めています。齋藤俊文はクリエイティブディレクターとして、文化庁「文化力」プロジェクト、TOKYO GUNDAM PROJECT、GUNDAM FACTORY YOKOHAMA、NHK 爆問学問、宮若国際芸術トリエンナーレ他、社会・文化・教養に関わる数多くのコミュニケーションを手掛けています。

九州・沖縄から



POWER OF CULTURE

■天神明治通り街づくり協議会 <http://www.tenjin-mdc.org>

天神明治通り地区(約17ヘクタール)における老朽建物の建替え推進を目的として2008年に発足した地権者組織です。“アジアで最も創造的なビジネス街”の実現に向け、地区の将来像を描いた「天神明治通りグランドデザイン」に沿った街づくりを推進しています。